地歴公民（日本史）　慶應義塾大学　経済学部　1/1

＜全体分析＞

試験時間　80 分

解答形式
選択式 32 問（記号選択 14 問、年代整序 18 問）　記述式４問　論述式 10 問　計 46 問
分量・難易（前年比較）
分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）
難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

大問数３題は昨年度と同じ。設問数は43問から46問に増加した。記号選択が２問、記述が３問、論述が１問増加し、年代整序が３問減少した。全体の難易度に変化はないが、大問Ⅱが極端に難しかった。試験時間80分に余裕があるとは言えない。

出題の特徴
論述問題が他学部に比べて突出して多い。また、史料・グラフ・地図などの資料を用いた出題が多くを占める。一昨年度・昨年度に続いて正誤問題は出題されなかった。

その他トピックス
大問Ⅰは、一昨年度・昨年度に続いて、経済学部の世界史入試問題とほぼ同様の問題文であった。
冬期講習「早慶大日本史」で、原油価格の推移に関するグラフを扱った。受講した生徒は取り組みやすかったであろう。

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野･テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
Ⅰ	記号選択 年代整序 記述 論述	近代の日本とドイツの関係 《史料》	選択・記述式の問題は平易なものが多く、取りこぼしをしないようにしたい。問２の「政府の予算に関する権限」に関する論述問題は、やや難。問５(3)の「第二次護憲運動」に関する論述問題は、難問とは言えないが、得点差がついたと思われる。	やや易
Ⅱ	記号選択 年代整序 論述	近世～現代の三井 《史料・グラフ》	問７(1)・(2)の論述問題は、やや難。問８ａは難、６と７で迷ったであろう。問10(1)ａ～ｄは、グラフの時期を判定するのが難しい。問 10(2)の「日本労働組合総評議会の結成とその路線転換」について説明する論述問題は、難。	難
Ⅲ	語句選択 年代整序 記述 論述	江戸時代末期～現代の地震と社会・政治・文化 《史料》	問 11ａの史料は、第１次日露協約の一部であるが、これを判断するのは難しい。全体としては大問Ⅰと同様に平易な問題が多く、確実に得点したい。やはり、論述問題の出来不出来で得点差がついたと思われる。	やや易

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

一部難問は含まれるものの、このような設問は合否に影響しないであろう。大半は標準的な知識もしくはその応用で正解が導き出せる問題なので、教科書の内容を史料・地図なども含めて確実にマスターしておきたい。また、未見史料やグラフ・統計などの資料対策として、過去問などの演習を通じて思考力・判断力を身につけていってほしい。さらに、歴史の因果関係を踏まえた学習は、年代整序問題はもちろんのこと、グラフの時期特定問題や論述問題にも役立つだろう。平易な論述問題は確実に得点できるように、普段から訓練しておきたい。

© 河合塾　2023 年